

『立命館百年史』通史第二巻 目次

序

凡例

序章

立命館の戦後処理／教育政策の転換と立命館学園／日本国憲法・教育基本法の成立／「平和と民主主義」の教育理念の内実化に向けて／全学協議会と総長公選制の確立／大学「大衆化」段階に向けた教学改革と長期計画化／「大学紛争」を全学の力で克服して／七〇年代における自主的民主的改革／世界的変動、そして八〇年代以降の課題に向けて／本巻の全体構成について

第一章 戦後の再出発と「立命館民主主義」への模索

はじめに

敗戦の混乱を越えて／末川博学長の誕生／学生自治活動の開始、教職員組合の結成／新制大学への移行と末川総長辞任問題／新しい末川時代の始まりと改革の推進／レッドページの嵐と創立五〇周年記念／「緑の学園」構想論議と「一二月原則」／中学校・高等学校の再編

第一節 学園民主化と占領政策

一 敗戦直後の学園

「終戦の詔勅」／敗戦前夜の学園をとりまく状況／復員・復学、授業再開／敗戦当時の学園体制——中川から石原へ

二 占領政策と学園改革の始動

占領政策の展開／「軍国主義・超国家主義ハ教育制度ヨリ除去」／石原廣一郎「国内亡命」から帰る／学園改革の始動／敗戦直後の改革構想／学園改革基本方針末川博学長の実現

三 秘密裏の末川獲得工作／末川博と石原廣一郎／末川博学長の誕生／末川博と立命館

四 学園新体制の発足と教職員組合の結成

石原・末川による人事刷新／教員適格審査法制／立命館大学における適格審査／教職員組合の結成と初期の活動／草創期の私立大学教職員組合結成状況

五 学生自治活動の開始と組織化——学友会の発足

敗戦直後の学生たち／敗戦直後の学園改革と立命館学友会の発足／「四五年学友会」その限界と期待／「学友会の態勢整ふ」／学生生活、学園経営の危機／学生自治に向けての七項目提案・要求／学園民主化の道程真の学友会の誕生

第二節 高等教育改革と新制大学の出発

一 戦後教育改革と新制大学認可

高等教育改革の前奏（一） 日本側教育家委員会報告書／高等教育改革の前奏（二） 米国教育使節団報告／教育刷新委員会における論議／学校教育法の制定／「自主的」な大学（設置）基準づくり／新制大学の大学基準づくりと混乱／一二新制大学の四八年度発足と立命館大学／新制大学早期移行にまつわる問題点／大学再生と戦後京都の知識人・文化人

二 末川総長辞任問題と総長公選制

末川総長の辞任／末川辞任の真因と留任運動の活発化／拡充部問題と学生参加——全学協議会の創出／民主化のあゆみ 総長公選制へ／選挙規程の制定と総長選挙の実施／末川復帰の懇請活動

三 末川総長の復帰と民主的改革の推進——全学協議会体制の模索

末川総長の復帰／民主的改革の推進／末川を囲む教員集団による民主化の始動／教職員による多数派形成と旧役員の忌避／「理事会並評議員会の運営に関する規程」／新しい末川時代のはじまり／教育復興の国民運動——総長とともにメーデーへ／「炎事件」を経て——全学協議会体制への模索

四 授業料値上げ問題と学園民主化

戦後のインフレと苦境の学園／相次ぐ授業料値上げと反対運動のきざし／四八年授業料値上げとグラウンド問題／学生の要求と理事会の対応／学費値上げへの組織的抵抗／全学協議会の誕生 学費の制度的整備／学園財政の課題と学園民主化

五 学園創立五〇周年

秋晴れの五〇周年記念式典／五〇周年記念事業／『立命館創立五十年史』／多彩な記念行事と記念論文集の発刊／朝鮮戦争の勃発 レッドページの嵐／諸事件を克服し五〇年代の飛躍へ

第三節 戦後学園体制の基盤形成

一 新制移行当初の教学的基盤

旧制から新制への学制の変化／施設諸条件の厳しさ／新制移行当初の教員と科目編成

二 研究所・大学院の設置

「立命館研究所」／「土曜講座」の開設／「立命館大学人文科学研究所」の発足／「理工学研究so」の設置／戦前の研究科（大学院）と学位／戦後の大学院制度／新制立命館大学大学院の発足／大学院工学研究科の設置／大学院の総合的發展

三 施設・キャンパス問題と学園財政

戦後の施設・キャンパス整備／「緑の学園」構想と論争の開始／学園初の特別委員会の設置とその意義／学費値上げ反対闘争 五二から五五年度へ／「新校舎建設に関する調査委員会」の報告書／「臨時調査委員会」と「五七全学協議確認」一二月原則／五〇年代の学園財政

四 教職員組合運動の展開

五〇年前後の社会状況と組合運動／私学教職員組合運動の連帯／立命館教職員組合の組織／組合民主主義と職場の民主化／賃金闘争／民主主義と平和を守る運動／学生自治活動・課外活動の展開

五 敗戦直後の学生運動と立命館／「全学連」と「私学連」／立命館学友会の動き／課外活動の展開

校友会の再建と発展
校友会の再建／再建に向けて―動きと人／校友会の新体制 緩やかな民主化／再建校友会の組織と活動／校友会再建と学園創立五〇周年／私学における卒業生組織／新寄附行為と卒業生組織／学園の発展と校友会／七〇年代に向けて

第四節 中学校・高等学校の再編

一 戦後における中等教育の再編

戦後教育再編の基本方向と教育二法／京都における戦後中等教育の再編／「新学制実施要綱」と「高校三原則」の実質化に向けて

二 戦後中等教育再編のなかの私学

困難な戦後私学中等教育の運営／教育基本法と私学中／高連

三 北大路・神山二キャンパス時代の立命館中・高

立命館中・高の再編／発足当時の神山学舎／新学制下の学園生活／学園民主化の波

四 神山学舎の廃止

廃止にいたる経緯と要因／神山学舎廃止と教職員の異動

五 定時制の変遷

定時制の全盛時代／生徒数の減少／生徒層の変化と募集停止／定時制の閉校

第二章 「立命館民主主義」の創成と学園の整備

はじめに

教学体制充実の模索から計画的整備へ／高度経済成長と日本社会の構造変化／大学の「大衆化」段階と高等教育政策／教学体制の基本的整備への模索／全学協体制の実質化／六〇年「安保闘争」と学園創造の新たな展開／計画的な学園づくりへ／社会構造の変化と教学改革／経営学部と産業社会学部の新設／六〇年代の達成と「大学紛争」の試練／中学校・高等学校の体制整備

第一節 教学体制の基本的整備に向けて

一 教授会、大学協議会の実質化と学部長理事制

新制大学における教授会の発足／講師会から教授会へ／学部に山積する課題／教授会民主化の原動力／学部三役の整備／学部と学部をつなぎ合う課題／大学協議

会の発足／大学協議会における審議／六〇年代へ残された課題／学部長理事制／「学内理事会」の確立に向けて

二 職員体制充実への取組み

「財団法人立命館館則」の制定と改正／「学校法人立命館館則」の制定／三部制（教育学部、総務部、財務部）の確立／職員採用制度の確立と人事異動の原則／課長会議の発足／新たな「職員像」に向けて

三 入学制度の基本的整備

敗戦までの入学制度／学部まかせの新制初期／初期の志願者数・入学者数／入試手当て問題／入学試験連絡協議会・入学試験委員会／全学統一入試の発足／大学進学志望の上げ潮にこたえて／推薦入学制度・奨学生選抜制度

四 研究条件・体制の整備

新制大学における教育と研究／教職員スタッフの充実／新制初期の助手職の実情／助手制度の整備／大学院特別研究生制度／蘇った学術研究―学会と学術誌、研究施設／図書館の充実

五 「全学協」体制の実質化

全学協議会の誕生と学生参加／全学協議会の概要と機能の限界／学生組織の整備と運動の高揚／学園復興委員会会の設置とその意義／学部五者会談、学園振興懇談会―「全学協」体制の整備

六 教職員組合運動の発展

給与体系の確立／私学共済への加入と福利厚生／六〇年「安保闘争」と平和、民主主義擁護の運動／教研活動

七 学生自治活動と諸団体の動向

五〇年代学生運動の動き／立命館における動きとその特徴／六〇年「安保闘争」／学内共闘／「学園振興運動」／「大学解体論」への傾斜／学友会執行部の交替／課外活動／立命館大学学生層の特徴／六〇年代半ばの学生意識（アンケート調査）

第二節 計画的な学園づくりの出発

一 臨時調査委員会の活動とその成果

長期的展望に立った計画に向けて／「改組後」臨調」の誕生―その構成と課題／「臨調」答申の意義／「臨調」答申の概要

二 「新五カ年計画」と「新二カ年原則」、創立六〇周年

学園復興期から振興期への発展／六〇年「安保闘争」そして学園振興／「新五カ年計画」の提起／「新五カ年計画」の討議／「新二カ年原則」の意義と到達点／学園創立六〇周年―長期計画の確立へ

三 第一次二部改革―「勤労者のための大学教育」

臨調「二部対策」答申／企画委員会「一学部三学科」案をめぐる議論／「二部対策要綱」の決定／「二部対策要綱」に基づく改革の実施／理工学部基礎工学科への改組

四 厚生援助政策と生活協同組合の発足

学制改革による学生数の急増／学生生活の変化と厚生課「三大業務」／奨学金政策の進展／学生アルバイトの恒常化と紹介業務／下宿不足と幹旋業務／学生・教職員の健康管理／生活協同組合の位置と役割／生活協同組合の設立とその前史／不祥事件と生活協同組合の後退／生活協立運動の継承と再頓挫／厚生施設の拡充／生活協立の設立へ／生活協の発展とその位置と役割

五 第一次長期計画―教学と財政の統一

「学園振興基本要綱」の誕生／学部移転、学園規模、新学部増設、財政の基本／「第一次長期計画」の財政計画／経常・建設勘定の区分／「第一次長期計画」の財政のまとめ／六〇年代から七〇年代へ

第三節 社会構造の変化と教学改革

一 大学教育論の深化と教学改革―「現代化・総合化・共同化」

「現代化・総合化・共同化」／教学条件から教学内容へ／どんな人間を育てるか／大学の「大衆化」―施設と学生数の不断の膨張／「小集団教育」の確立／「小集団教育」の成果／教員と学生がつくる授業をめざして／七〇年代に向かつて

二 一般教育論の実質的展開と体制整備

第一次米国教育使節団報告における「普通教育」の重視／大学基準協会の「大学基準」と一般教育／一般教育の実施と問題状況／文部省「大学設置基準」の制定／立命館大学における一般教育の発足／全学協確認と一般教育問題／「一般教育センター」の設置と活動／「相互くさび型・たすぎがけ」問題／「総合コース」の試み／七一年度の総合コース「日本の『近代化』」／「特殊講義」の登場

三 外国語教育・保健体育教育および教職課程

(一)「外国語科連絡協議会」と外国語教育
新制大学への移行と外国語の履修方法／「一二月原則」と「外国語科連絡協議会」の結成／一般教育改革との連動／外国語担当教員の充実／『外国文学研究』の創刊と研究活動／外国語共同研究室の開設／外連協運営委員会の発足と機能の拡大

(二) 保健体育教育

大学保健体育教育の始まり／教員体制と施設設備／六三年度全学協確認と保健体育教育の革新

(三) 教職課程

教員資格の経過措置／課程認定制度のできるまで／認定講習会と「課程認定」／教職課程委員会と教職課程教室／京都地区大学教職課程協議会／教壇へ経営学部設置と経済・経営両学部の衣笠移転
商学部設置問題／経営学部の創設／経営学部の教学／経済・経営両学部の衣笠移転

五

産業社会学部の創設
「教学、財政の現状とその対策について」／新学部の

基準と企画委員会答申／「産業社会学部設置に関する調査委員会」報告／「経営学部設置についての総括」／産業社会学部の創設／教員組織と入学者数／「現代化・総合化・共同化」のユニークな実践／カリキュラム改革と全学的視点、二部問題／卒業生の進路
六 「庶民の学園」の戦後的展開

―「教職協同」と社会的連帯、国際化にも向けて「助講会」とその背景／「青年婦人部」と諸サークル／よみうりテレビ大学講座／国際交流の先駆け―ソ連科学アカデミーとの協定／幻の「ユーラシア大陸學術調査遠征隊」／そして常に「庶民の大学」

第四節 中学校・高等学校教学の振興

一 中・高教学と体制整備

中等教育をめぐる動き／立命館の中・高振興対策／施設の新築改修

二 高中審議会、総合研、生徒指導部の発足

高中審議会／総合研／「生活指導部」と生徒の自主活動

三 学内進学制度の改革

推薦制廃止と三科目入試／「恒久的な学内進学制度」への改革／五科目試験制度の問題点／その後の議論の展開／中・高・大一貫教育と学内進学制度問題
六六年企画委員会答申

四

一貫教育の内実化に向けて／「中・高の危機」をめぐって／大学との関係／教育体制への提言／教育実践に根ざした教育改革／中・高創立六〇周年／細野教授の校長就任

第三章 「大学紛争」と立命館学園の課題

はじめに

高度経済成長のゆがみと「政治の季節」／「大衆社会」の形成と新たな社会運動／六〇年代末の世界的な「学生反乱」／日本の「学園闘争」と学生運動の分裂／「大学解体」と「暴力」への傾斜／立命館大学の「大学紛争」と「大学改革」／「暴力」を排し、全学的な論議と合意で「大学改革」へ

第一節 一九六〇年代後半の政治・社会状況と「大学問題」

一 大学の「大衆化」とその背景

高度経済成長と「教育投資論」／中央教育審議会答申と「大学問題」／大学の「大衆化」と日本での特徴／私学の根本矛盾と私立学校振興の方策／国民の高等教育要求と教育運動

二 六〇年代後半の世界と日本の学生運動

●世界的な「学生反乱」
高度成長と学生数の爆発的増大／欧米先進諸国の「大学紛争」／欧米における「大学紛争」と大学改

革

●日本の学生運動

「六〇年安保」後の学生運動、全学連の分裂／全国的な「大学紛争」の勃発／「大学解体」と「暴力」への傾斜／日本の「大学紛争」と大学改革／政府や文部省の対応

●立命館大学の学生運動

全学協議会制度と「構造改革」／学友会と学部自治会の「民主化」／「全共闘」の登場

三 「大学紛争」と立命館における民主主義の到達段階

―「大学改革のための討議資料」による問題提起「大衆化」段階における大学と社会／全構成員自治の新たな実質化を目指して／旧いアカデミズムの克服と「現代化・総合化・共同化」／戦後立命館における教育展開の総括／私学危機の爆発・「大学紛争」と教学改革の課題／財政・管理運営問題の立ち遅れ六七年「同和教育」問題

四 部落解放同盟からの「申し入れ」／大学の「告示・声明」と学生の動き／解放同盟の糾弾、大学の見解と学友会等による批判／立命館大学と部落問題研究所／部落差別の認識をめぐって―「大学教育と部落問題」の改訂／「同和教育」から「人権教育」へ

五 「総長選挙規程改正」問題の意義

大学自治が当面していた課題／「大学紛争」の萌芽と大学自治の動揺／総長選挙規程改正へ向けての論議／改正案要綱の全学討議と「大学紛争」による中断

第二節 立命館における「大学紛争」とその克服

一 「大学紛争」の経過

「大学紛争」への兆し／「新聞社事件」―「全共闘」の登場／学寮問題と寮連合／中川会館（本部棟）封鎖と「立命館一万人集会」／教員の辞任・辞職／封鎖解除なしに寮連合と交渉再開／「全共闘」との「大衆団交」へ／全立命館人の結集で入試実施／存心館封鎖と自主解除、中川会館の封鎖解除、恒心館の封鎖／暴力・破壊事件の頻発 学年末試験と卒業式／新年度を迎えた学園―入学式から開講へ／恒心館への強制捜査・封鎖解除 「わだつみ像」の破壊／紛争の克服と学園正常化へ／政府による大学介入と反対運動の盛り上がり／七〇年代民主化の新たな高揚へ

二 「わだつみ像」の破壊と再建

戦没学生の「嘆き」「怒り」「苦悩」の像／「わだつみ像」の破壊と再建への決意／「全共闘」の思想的破壊と像破壊の弁護論・免罪論／「わだつみ像」の再建・再建立 国際平和ミュージアム開館

三 寮問題の解決へ

戦後における学寮の開設／初期の寮とその運営／寮運動のはじまりと寮連合／「統一寮運動」と新「学思寮」の建設／「寮問題についての確認事項」―寮の教学的位置づけ／新寮建設後の運営と寮生実態／入寮

選考問題と水光熱費不払い問題／寮の一時閉鎖と仮寮／強制捜査・明け渡し仮処分／新しい寮の位置づけと旧寮再開／再開された寮とその後

第三節 学園民主化の新しい段階へ

一 新たな「大学自治論」―「総長選挙規程」の改正

「大学紛争」の克服と大学改革の転機／総長選挙規程の改正と新総長誕生／新総長選挙規程／大学自治と学生処分制度の改革／大学自治の新展開

二 国民的要請にこたえる教育・研究の改革

中教審等の「大学改革」と教育・研究論／立命館大学の教学改革／教学内容を点検する基本視角／教育・研究と組織運営―その相互関係／教育・研究条件の改善／助手制度の改善と共同研究室体制

三 公費助成運動の新たな展開

戦後の私立大学と公費助成問題／高度経済成長と「日本型私学の根本矛盾」／「国庫負担に堪える委員会」の発足／教職員組合や学生自治会の運動／『立命館大学教学白書』の作成

補論 戦後民主主義と「立命館民主主義」

―いわゆる末川体制について

末川博の死去／戦後民主主義の高揚と学園／学園民主化に向けて／末川辞任と学園民主化の進展／学園の代表を選ぶ―総長公選制／全構成員自治の要―全学協議会システム／学内優先の原則―学内理事会の確立と発展／「大衆と共に歩み、考え、学ぶ」―「立命館民主主義」の原点

第四章 立命館学園新展開への始動

はじめに

高度経済成長の終焉／社会構造の人類史的な転換期／教育と大学をめぐる状況の変化／公費助成と私学政策の転換／七〇年代立命館大学の「自主改革」／教学改革と自主的集团的学習／一拠点化を軸にした全学協議議／七〇年代財政構造問題／七九全学協議と八〇年代への課題／七〇年代の中・高等教育実践と長期計画化

第一節 学園体制の新局面

一 「大学紛争」の克服と「自主改革」への模索

新総長選挙規程 武藤守一総長の選出と急逝／細野武男総長の就任と財政・教学の見直し／教学理念「平和と民主主義」の再確認／衣笠一拠点化と改革への諸課題／学園運営体制の再構築

二 「教学改革」の新たな試み

七〇年代の教学改革課題／小集団教育体系の確立／専門教育のカリキュラム改革／七〇年代の到達点と残された課題

三 学生・職員参加の学部長選挙

「新しい自治の観念」と大学の管理運営／「立命館民主体制」と学部段階の在り方／学部長選挙規程の制定と学生・職員参加／学部長選挙の実施

四 職員の位置づけと「新しい教職員像」

「大学職員論」の全国的状況／立命館における職員の位置づけ／課長制度の改革／事務体制の再編と職員の位置づけ／私学危機の深化と教職員の役割／教学を支える新しい教職員像／職員職場の民主化と事務体制の整備

五 全構成員自治と七〇年代の全学協確認

大学自治の新段階／公費助成と財政民主化（七〇年度全学協確認）／私学危機と学生数の適正化（七三年度全学協確認）／新しい大学像・学生像の創造（七五年度全学協確認）／八〇年代以降の長期的課題に向けて（七九年度全学協確認）

六 校友会の組織的整備

六〇・七〇年代の学園の発展／戦後卒業生の増大と校友会の整備／校友会の拡大と多様化／朝鮮人同窓会のこと／職域・グループ同窓会の発展／女子校友の増加と組織化／校友会基盤の確立／校友会と学園卒業生の進路・就職状況——一九四六～八〇年を中心に

戦前と敗戦直後の就職指導・斡旋の体制／体制整備の時代——四六～五四年度／「青田刈り」の時代——五五～六四年度／「自由応募」の時代——六五～八〇年度／立命館大学と就職問題

第二節 公費助成・学費問題の新段階と学生諸活動の再建

一 公費助成と全学連絡協議会

七〇年度全学協確認と公助連の結成／私学振興助成法と「日本型私学の矛盾」／中教審路線と「国民のための私学づくり」運動／私学助成「曲がり角」論と「全大学の問題を考える力量」の形成

二 相対的低学費政策と新学費方式

相対的低学費の実体化／低学費の定着と矛盾の激化／七〇年度全学協における財政論議——財政民主化の基準と原則／七三年度全学協確認——相対的低学費と学園民主化／七五・七九年度学費論議——相対的低学費「政策」への路程

三 学生実態の変容と自主的・集団的学習活動

学生実態の変化／立命館における学生実態把握／「自主的・集団的」な学習・研究活動／学習関連施設の拡充／自家用車の構内乗り入れ禁止

四 暴力追放を軸とした学生運動への統一

立命館における「大学紛争」の特徴と暴力の克服／正常化のなかでの「全共闘」の行動／繰り返される暴力と破壊行動／七〇年代へ——自主的・民主的改革の始まり／七〇年代——暴力追放へ／「学園から暴力をなくすための確認」

五 学寮の変化とセミナーハウス、新学生会館

学生の生活様式・意識の変化と寮生活／蓬萊セミナーハウス／宇多野セミナーハウス／新学生会館／学生会館の管理運営と利用

六 学術・学芸サークルの再生

「大学紛争」と学術文化活動／学術系サークル活動／学芸系サークル活動

七 スポーツ活動の発展

模索する体育会活動／部員数の減少／「大学紛争」と体育会活動／科学的なスポーツ理論による新たな伝統へ／「大衆化と民主化」をにかけて／実力の向上へ／体育会OB会の発足／「真の大学スポーツ創造」をめざして

第三節 学園新展開への始動

一 衣笠一拠点

衣笠一拠点化の視点と射程／一拠点志向から一拠点実現へ／一拠点による学園政策の総合化／一拠点実現の長期計画／一拠点の完成と新たな展開へ

二 第二次二部改革

第一次二部改革以降の取組み／第二次二部改革——講時制と衣笠への統合／二部責任体制の強化／八〇年代「社会人教育の形成」へ向けて

三 大学院の充実

大学院改革の歴史的経緯のなかで／立命館における新制大学院の展開と課題／大学院制度の改定／大学院政策の展開／OD問題と大学院拡充へ

四 国際学術交流の新展開

七〇年代の国際交流の意義／在外研究と国際交流の発展／協定に基づく国際学術交流の開始／国際交流の拡大／教学内容の国際化に向けて

五 八〇年代以降の学園規模の新展開へ

七九全学協確認と学園規模問題／「緑の学園」構想と学園規模問題／教学と財政の接点としての予算定員／第一次長期計画と学園規模問題／第二次長期計画と学園規模問題／八〇年代およびそれ以降を展望する学園規模問題

第四節 立命館中学校・高等学校の教学創造

一 七〇年代の教育実践

中・高教育の基本課題／中・高の一貫教育と中学入試／高校「文化講座」などの設置／中学における「読書指導」と「卒業研究レポート」／修学旅行と制服の廃止／クラブ活動の活発化をめざして

二 公費助成運動と保護者との共同

戦後の私学中等教育と公費助成／「立命館中・高公費助成推進四者連絡協議会」の発足／「京都私立中高公費助成推進連絡会」の結成／保護者と共同した教育運動と公費助成／条例制定直接請求運動と八一年度学費問題

三 中・高長期計画の課題と展望

中等教育の大転換期と七〇年代長計答申／七一年「第一次答申」における課題整理／男女共学・移転・財政問題の提起―七三年「第二次答申」／長期計画実現の要点―七四年「第三次答申」／教育改革論議のなかでの創立七〇周年／七七年「第四次答申」と全学的討議／八〇年代「学園第三次長計」による移転・男女共学の実現

補 「立命館清和会」戦後の歩み

戦後清和会の活動／清和会の活性化に向けて／清和会の母校への貢献

おわりに ― 八〇年代以降の課題を展望しつつ

七九全学協確認と「学園創造」の時代へ／八〇年代およびそれ以降の長期課題へ向けて／立命館学園創立八〇周年・大学衣笠移転完成記念行事と式典／八〇年の星霜をのり越え 将来への飛躍を誓う

あとがき

出典・参考文献一覧／図表一覧／本文写真一覧／口絵写真解説

立命館学園略年表（戦後前半期）